



図書委員のおすすめの本！



「植物は知性を持っている」
ステファノ・マンクーゾ

「植物に知性はあるのか？」この問いをめぐって、はるか昔から論争がくり広げられて来た。本書を一読すれば野菜も植物も今までと同じ目で見えなくなるだろう。



「総理にされた男」
中山七里

売れない舞台役者も加納慎策は、総理大臣のものまねで話題を集めていた。ある日彼は、総理の替え玉を引き受けることに。襲い掛かる未曾有の事態に慎策の声はみんなの心に響くのか。



「ローズの小さな図書館」
キンバリー・ウィリス・ホルト

物語序盤、主人公のローズは様々な災難に襲われる。そんな中で母を助けるために11歳のローズは年齢をごまかし図書館バスのドライバーとして働き始める…。本への愛が家族をつなぐ、心に残る物語。



「キリン」
山田悠介

「パーフェクトベイビー」を望む母の期待に応えようとする兄弟。人間味の無い兄の秀才と、失敗作として扱われる弟の麒麟。性格も環境も違う彼らが迎える運命は…。家族や兄弟愛を描いた心奪われる話。

先生にインタビュー～～！

川上 一成先生(英語科)に聞きました

Q1 先生のお気に入りの本を教えてください。



自分の小さな「箱」から脱出する方法

Q2 その本を選んだ理由は何ですか。

高校生の頃から家族や友人、恋人から「変わってるよね」、「自分勝手だよね」、「A B 型ってよくわからない」などといわれることがあり人間関係で悩むことがありました。大学では心理学を専攻したのでさまざまな心理テストを受ける機会があり、自分の社会性の欠如が科学的に証明されてしまいました。なんとかしなきゃと思っていた頃にたまたま本屋で手に取ったのがこの本でした。

自分の抱える問題を認識していない主人公が、新しい職場でのトレーニングを通して自分自身の行動・発言・考え方を見つめなおし、良好な人間関係を築ける人間に変わっていくというストーリーです。

私自身もこの本を読んでだいぶマイルドな人間になれたと思っています。

Q3 日立北の生徒に一言お願いします。

勉強、部活、友人関係、恋愛、将来への不安と悩みは尽きないと思います。思い通りにいかないことを他人のせいになくもなりませんが、他人を変えることはできません。自分を変えるほうが手取り早いし簡単です。考え方を考えるだけで楽になりますよ。

読書の思い出 国語科 小泉 しのぶ

子供の頃、一番好きだったことは本を読むことだった。

というより「活字」を読むことが好きだったのかもしれない。いつも何か「読む」ものがないと落ち着かなかった。

一番最初に読んだ本の記憶はさすがに曖昧である。

ただ小学館の「幼年世界名作文学全集」というシリーズが家にあった。字が大きく挿絵も豊富だがいわゆる絵本ではなかった。たぶん最初は大人に読んでもらったはずだ。自分で読めるようになってからは、ほぼ全部暗記するぐらい何度も何度も繰り返し読んだ。『しあわせの王子』『ニルスの不思議な旅』『かがみの国のアリス』『ピーターパン』『アンデルセン童話』『おやゆび姫』『小公女』etc これらの物語をみなさんは知っているだろうか。

この全集は長いこと私の宝物だったが、引越しをするときに行方がわからなくなった。以後、何度も読み返したくなるような大切な本だけは大切に保管している。

最近はタブレットで電子書籍を購入して読むことが増えた。置き場所に困ることもないし、本棚を持ち歩いているようなものだから、いつでも好きなときに読むことができる。便利なのだが、「自分の大切な1冊」には、なぜかならないような気がしている。

川上弘美、江國香織、梨木果歩ら、女性作家のナイーブな作品が最近のお気に入りである。



<図書館より>

☆冬休みも近づきました。ふだんは読めない本をゆくり読むチャンスです。本と出会いにきませんか。

☆図書館では、購入希望を受付しています。漫画等、購入できないものもありますが、読みたい本が図書館にないときはリクエストをどうぞ！

